



令和5年度 小樽商科大学学術研究奨励事業
第18回「学生論文賞」

国立大学法人小樽商科大学

グローバル戦略推進センター教育支援部門

目 次

総 評.....	1
審査結果一覧.....	2
ヘルメス賞及び優秀賞講評	3
審査員一覧.....	5

総 評

学生論文賞実施委員会
委員長 石崎 香理

今年度は、学部生部門に25編の応募がありました。所属学科の内訳は、商学科から11編と最多で、続いて、社会情報学科から10編、企業法学科から1編、経済学科から3編の応募となりました。

今年度もコロナ禍に見舞われ、文献の収集や調査などに一定の制約があったことと思われます。それにもかかわらず、多数の応募をいただいたことは、誠に喜ばしい限りです。

審査については、2段階審査で行いました。第1次審査は、25編について、多分野の研究に携わる17名の教員が、学術横断的な視点からプレゼンテーションの審査を行いました。第2次審査は、第1次審査を通過した10編について、論文内容に関連した研究に携わる20名の教員が論文の審査を行いました。

厳正な2段階審査の結果、大賞となるヘルメス賞1編、優秀賞5編、奨励賞4編、発想、第1次審査のプレゼンテーションで最上位の得点を得た論文に授与されるベスト・プレゼンテーション賞2編となりました。

今回の応募論文は、身近なテーマから将来、学生の皆さんが社会生活を送る上で関わってくるであろう様々な問題提起へと向き合う姿勢が感じられた内容でした。

これは応募された皆さんの問題意識の高さを示すものであり、また分析手法においても新しい観点が発揮され、本賞の水準の高さを再認識することができました。

論文に初めて携わる皆さんですが、応募された論文の水準の高さは、皆さんが論文執筆や異分野での発表の経験を通じて単に主題に応じた特殊な論題について学んだだけではなく、より一層、社会について広く透徹した視点を獲得され、その洞察力を将来的に職業生活などを通じて、分析的あるいは総合的な判断力として遺憾なく発揮されていくであろうことを確信させるものでした。

コロナ禍の影響はずいぶんと解消されましたが、先にも触れましたようにまだ一定の制約の中での論文執筆、皆さんの努力には称賛しかありません。

この経験が皆さんの未来への一助となることを願いつつ、本賞が今後も更なる発展をしていくことを期待しております。

今年度もご多用中にもかかわらず、本論文賞の開催・審査にご協力いただいた教職員の皆様には、厚く御礼を申し上げますとともに、来年度もなにとぞご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、本論文賞の実施に当たりまして、株式会社北洋銀行様より例年と変わらぬ多大なご支援を頂戴いたしました。記して深甚なる謝意を表します。

審査結果一覧

ヘルメス賞

道内地域への直接投資における誘因・阻害要因の考察
ー各地の事例調査と QCA 分析ー

池田 裕哉

優秀賞

大規模な人為的攪乱がササの形質変化を介して枯葉の分解と森林棲両生類
に及ぼす影響

長崎 夕
佐藤 未来

web3 技術を用いた地方創生の取組成果における価値指標の提案
～価値循環システムのモデル構築と積丹町での実証実験～

多田 有希
三枝 和真
本間 皓也
大澤 友哉
有馬 昂平
福山 柚月
山内 麻衣
佐藤 尚哉

伝統産業におけるマーケティング・ネットワークの発展プロセスに関する
考察ー波佐見焼産地における認知的正当性の働きー

日向 萌

観光客と通学・通勤客が混在する小樽駅における歩行者のシミュレーション
比較

内山 莉々菜

ChatGPT を用いた記述式法律学科試験問題の解答生成と専門家による評価

佐久間 千佳

奨励賞

妊娠・出産・育児に関する情報サイトにおける自治体による子育て支援効果
の調査

新井田 瑠璃

「地球の歩き方旅行記データセット」を用いた北海道内の旅行者の行動範囲
の調査

藤原 里紗

TOPIX100 の有価証券報告書に含まれる表形式データを対象とした GPT-4
による表構造理解の試み

佐藤 栄作

ChatGPT を活用したグラフィックレコーディングの自動化と
そのファシリテーション効果検証

伊賀 世杜奈

ベスト・プレゼンテーション賞

日本人若年層のエシカル消費行動メカニズムに関する実証分析

尾崎 茜音

北海道におけるジビエとガストロノミーツーリズム～鶴居村の事例から～

佐野 瞭斗
谷口 晴菜
山根 愛加

ヘルメス賞及び優秀賞論文講評

ヘルメス賞

「道内地域への直接投資における誘因・阻害要因の考察
—各地の事例調査と QCA 分析—」

池田 裕哉

本論文は、北海道における人口減少問題に対する解決策として海外からの直接投資を取り上げ、投資の誘因・阻害要因を明らかにすることを目的としている。研究方法として、15市町村に関する事例調査およびQCA分析（質的比較分析）を用い、誘因要因と阻害要因の因果関係を分析し、どのような組み合わせが直接投資に結び付きやすいのかを考察している。結果として、本論文は投資に重要な要因として「環境資源があること」と「国外言語対応があること」を導き出し、逆に「交通利便性が悪いこと」と「経済規模が小さいこと」をどちらも満たす場合に投資を大きく阻害することが認められた。

QCA分析は比較的新しい研究方法であり、色々な分野に応用できる可能性がある。北海道の地域活性化を考える上でも必要な観点を提供しており、判断基準や項目の選択を精査すれば、道政等にも寄与できるような調査方法になりえるのではないかという期待も膨らむ。著者も自認しているように「手法の検討が少し不十分であった点」は否めないが、新しい分析方法に果敢に挑戦し、一定の成果を得ている点は高く評価に値する。

優秀賞

「大規模な人為的攪乱がササの形質変化を介して枯葉の分解と森林棲両生類に及ぼす影響」

長崎 夕
佐藤 未来

本論文は、森林の伐採が自然環境にどのような影響を与えるのかについて、エゾサンショウウオの生態を通じて中長期にわたる影響を検討している。自然環境保全は人類が抱える社会問題であり、無秩序に破壊される森林資源に与えられる影響について考えさせられる。研究ではチシマザサに着目し、葉の形質変化とその枯葉の培養水を用いたサンショウウオの孵化幼生の成長率について調査・検討をしている。その結果、大規模な林業施業は、ササの防衛能力を向上させ、その形質変化が枯葉の分解速度を減速させ少なくともサンショウウオ幼生の初期成長に影響を与えていることを明らかにした。ついで、本研究が森林資源の有効利用や保全に配慮する際の重要な資料になりうる論文として高く評価する。

「web3 技術を用いた地方創生の取組成果における価値指標の提案
～価値循環システムのモデル構築と積丹町での実証実験～」

多田 有希
三枝 和真
本間 皓也
大澤 友哉
有馬 昂平
福山 柚月
山内 麻衣
佐藤 尚哉

本研究は、日本の少子高齢社会と地方の過疎化に対応するため、地方創生事業の新しいアプローチとしてWeb3.0技術を用いる方法を提案している。従来のモノ消費やコト消費から進化した「イミ消費」の概念を導入し、消費行動の変化に合わせて観光事業のアプローチ方法も変える必要があると指摘している。特に、ブロックチェーン技術を用いたNFT（非代替性トークン）を活用し、地域の「見えない価値」を可視化・流通・収益化することで、地方創生に貢献する可能性を探っている。本研究のポイントは、Web3.0技術を地方創生に応用し、地域固有の価値をデジタル化することで、地方自治体の収益源としての可能性を探っている点である。また、実際にフィールドワークを実施し、積丹町内で実証実験を行っている点も挙げられる。データ分析を深めることが課題として残るが、一定の水準に達しており、優秀賞に値する研究である。

「伝統産業におけるマーケティング・ネットワークの発展プロセスに関する考察 —波佐見焼産地における認知的正当性の働き—」

日向 萌

本研究は、伝統産地におけるマーケティング・ネットワークの発展プロセスを考察したものである。伝統産業のマーケティングに関する既存研究のレビューから、産地外部とのネットワーク形成プロセスに関する研究、ならびにマーケティング・ネットワークを発展させる条件に関する研究が不十分であることを指摘し、「伝統産業に携わる企業や職人はどのようなプロセスでマーケティングエージェントを受け入れるのか」という具体的なリサーチクエスチョンを設定し、この課題に研究対象へのインタビューを通じて接近している。こうした一連の検討を通じて、興味深い理論的・実証的知見を導出している点は高く評価される。

マーケティング・ネットワークの概念定義がなされていないこと、本研究の1事例に基づく結論が一般化可能性の点でどのように正当化されるのか不明確であるといった問題点も指摘されるが、学部学生の論文としては、十分に優れた研究である。

「観光客と通学・通勤客が混在する小樽駅における歩行者のシミュレーション比較」

内山 莉々菜

本研究は群集シミュレーション技術を用いて JR 小樽駅内の利用者の動きを再現することにより駅施設の配置や標識による誘導等が利用者の流れに及ぼす影響について分析し、駅の混雑の改善に資する知見を得ようと試みている。

特に JR 小樽駅は北海道有数の観光地である小樽市の玄関口の一つであることもあり、本研究ではシミュレーションを作成するにあたり利用者を観光客と通勤・通学客の2種類に分類し、それぞれに異なる特性(歩行速度等)を付与して実験しているところに新規性がある。

また構内図を元に JR 小樽駅の仮想モデルを作成し、エスカレーター等の設備の特性も国土交通省告示に従って設定した上で観光客の行動や乗降客数等のシナリオについても複数個用意するなど、シミュレーションをより現実に近付けるために多くの努力がはらわれている。

その様にして準備された複数個の設定についてそれぞれ一定の回数の実験を繰り返し、結果を統計的仮説検定を用いて検証するなど考察の内容の客観性もある程度確保されており、本研究は優秀賞に値する。

「ChatGPT を用いた記述式法律学科試験問題の解答生成と専門家による評価」

佐久間 千佳

本卒業論文では ChatGPT-4 を用いて、本学企業法学科科目の期末試験問題に対する ChatGPT の解答生成能力の検証をおこなっている。実験に使用した科目は民法および刑法であり、これらの期末試験問題に対して ChatGPT で解答を作成し、科目担当教員による採点結果をもとに ChatGPT の解答生成能力を分析している。本論文の実験結果では、使用した ChatGPT では期末試験問題に対して法学的に論理的な記述解答を生成できないことを明らかにし、ChatGPT が日本語の法学試験に適切に解答するには現状多くの課題があることを指定している。実験に使用した問題数が少なく、現状ではバイアスの強い分析結果になっているものの、本研究は法学分野における一般向け LLM の現状を調査した事例研究として評価することができる。

審査員一覧

第1次審査員一覧 (50音順)

石崎 香理	猪口 純路	大津 晶	長村 知幸
小林 広治	堺 昌彦	才原 慶道	佐藤 剛
ジョーダン チャールズ	菅沼 真也子	高橋 優季	田島 貴裕
中川 喜直	西口 純代	西出 崇	籾本 智之
山田 久就			

(以上 17名)

第2次審査員一覧 (50音順)

猪口 純路	王 力勇	岡部 善平	小倉 一志
片岡 駿	木村 泰知	小泉 大城	小林 広治
近藤 公彦	佐藤 剛	佐山 公一	ジョーダン チャールズ
高橋 恭子	田島 貴裕	玉井 健一	中川 喜直
西村 友幸	沼田 ゆかり	籾本 智之	深田 秀実

(以上 20名)